

兵庫・時友遺跡

ときとも

1 所在地 兵庫県尼崎市武庫之荘八丁目

2 調査期間 第七次調査 一九九六年（平8）六月～八月

3 発掘機関 尼崎市教育委員会

4 調査担当者 小林公治・大川勝宏

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、尼崎市の北西端に所在し、旧地名で時友・友行地内に広がっている鎌倉時代の集落跡で、伊丹礫層を基層とする標高約一一

mの台地上に立地し、周辺

は宅地化が進んでいる。中

世には野間荘の一部であつ

たと考えられている遺跡で

ある。



(大阪西北部)

既往調査は小規模かつ單
発的なものが多いため、詳
細なデータは少ない。一九
七〇年の山陽新幹線建設に

先立つ第一次調査では、今回の調査区のすぐ北側で掘立柱建物・土坑が見つかっているが、集落の全体像は不分明なままである。今回
の阪神・淡路大震災の復旧・復興事業に伴う第七次調査では、井戸
二基、溝五条、土坑七基、ピット多数が検出されたが、遺構面は伊
丹礫層まで削平されており、建物などは確認できなかつた。

木簡は一基の井戸から出土している。SE一からは、埋土最下層
付近から和泉型瓦器椀、同安窯系青磁椀、平瓦片などに伴つて(1)の
卒塔婆形木製品が、SE一からは同様に最下層付近から土師器皿、
和泉型瓦器椀、漆器椀、曲物、木匙などに伴つて(2)の木簡が出土し
ている。いずれも共伴する瓦器椀の編年観から一二世紀後葉から一
三世紀初頭頃のものとみられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「南無カ」
[□□□□□□]

〇三一

(343)×27×5 061

(2) 「▽○一曰百部□□□」

261×44×5 032

(1)(2) いづれも墨痕は消失しており、腐食の差で墨書部分がわずか
にレリーフ状に浮き上がりて遺存していた。(1)は下端が折損する。

(2)は表面左端が剥離し、「日」の横に穿孔がみられる。「一日」は「百」の可能性も考えられる。

9 関係文献

尼崎市教育委員会『尼崎市内遺跡 復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書』(一九九九年)

(大川勝宏)



(1)



(2)

兵庫・明石城武家屋敷跡

所在地 兵庫県明石市東仲ノ町・大明石町

調査期間 一九八六年(昭61)三月～一九八八年一〇月

発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査担当者 岡田章一・長谷川真・村上泰樹・山下史朗・久保弘幸・甲斐昭光

遺跡の種類 近世武家屋敷跡

遺跡の年代 古墳時代～江戸時代

遺跡及び木簡出土遺構の概要

人丸山に位置する明石城の南側、中堀と外堀に挟まれた空間は、

江戸時代の武家屋敷地帯であり、その名残の短冊型地割りが部分的に現存している。

現在も続けられている教

須磨の実態が次第に判明しつつあるが、山陽電鉄本線連続立体交差事業に伴う調査は、



(明石・須磨)